



# 株式会社フクシマ化学

## エコアクション21 環境経営レポート



活動期間 2023年6月21日～2024年6月20日  
発行日 2024年8月31日

## 【目次】

1. 環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3頁
2. 会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4頁
3. 実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5頁
4. 環境経営目標と実績・・・・・・・・・・・・ 6頁
5. 取り組み結果の評価及び次年度への取組・・・ 8頁
6. 法規制の遵守・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9頁
7. 代表者による全体の評価と見直し・指示・・・ 10頁

表紙挿絵の当社環境配慮製品<laqua casa>について・・・

これまでにない、心地いいシャワータイムのために開発されたマイクロ・ナノバブルシャワーヘッド。マイナスの電位を帯びた極小微粒子が、毛穴の奥まで入りこんだ老廃物や汚れに付着し、洗い流します。保湿や頭皮マッサージ効果もあり、よりリラックスしたひとときをお愉しみいただけます。お子さまや女性でも持ちやすいコンパクトサイズで、節水効果も高く経済的です。

### 【効能】

#### ・洗淨

マイナスに帯電した泡が、皮脂汚れや界面活性剤を吸着  
毛穴の中に入り、消滅時のエネルギーで汚れを剥離

#### ・節水効果（20%～40%）

シャワーヘッド内部構造の特性によって、水圧0.1MPa  
にて流量8L/分程度の節水効果を実現



# 株式会社フクシマ化学

## 環境経営方針

### 環境経営理念

近年のエネルギーや資源を大量に消費する社会活動の進展は、私たちに物質的豊かさをもたらす半面、環境破壊、生態系の異変、地球温暖化などを引き起こし、その影響はもはや地球規模の問題となってきました。当社は豊かな水と緑の恵みを楽しめる美濃加茂市の恩恵を子孫に伝え、そして地球環境を守るため、環境と共存する持続可能な事業活動を展開してまいります。

### 環境経営方針

1. 環境マネジメントシステムの確立  
環境マネジメントシステムを確立し、それを維持、継続して、企業としての社会的責任を果たします。
2. 二酸化炭素排出量の削減  
限りあるエネルギー及び資源の使用量の低減を推進します。
3. 廃棄物及び水使用量の削減  
3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を通じ廃棄物の削減および節水に努めます。
4. 製品への環境配慮  
環境配慮型製品の開発、改良、販売の促進を図ります。
5. 環境関連法規の遵守  
環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
6. 周知、公表  
この環境経営方針を、全従業員に周知して社員が一丸となって取組、また公表して社外のコミュニケーションを図ります。

改定日 2020年2月21日

代表取締役 福島康貴

## 2.会社概要

### (1) 名称及び代表者名

株式会社 フクシマ化学  
代表取締役社長 福島康貴

### (2) 所在地

本社・第2工場 岐阜県美濃加茂市加茂野町今泉1135番地  
第1工場 岐阜県美濃加茂市加茂野町今泉749番地

### (3) 環境管理責任者氏名及び連絡先担当者

環境管理責任者 経営管理部係長 今峰 良太 TEL : 0574-24-1218

連絡先担当者 経営管理部係長 今峰 良太 TEL : 0574-24-1218

### (4) 事業内容

プラスチック製品の企画・製造・販売

### (5) 事業の規模 2023.6.20 現在

資本金 1,000万円  
年間売上高 2,082百万円(2023年度)

	本社	第1工場	第2工場
従業員	70名		
延べ床面積	3056.13	1642.52	1413.61

### (6) 事業年度 6月21日～翌年6月20日

### (7) 認証・登録の範囲

株式会社フクシマ化学 本社・第2工場 第1工場の全社、全組織、全活動  
事業活動：プラスチック製品の企画・製造・販売

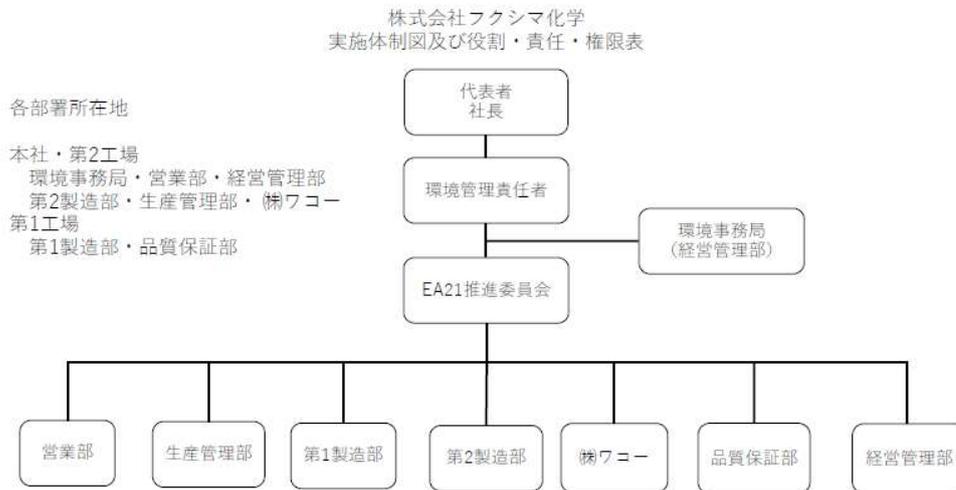
### (8) 主な環境負荷項目の3年間の実績推移

年度	2021	2022	2023
温室効果購入電力kg-co2	525,182	536,540	519,876
温室効果化石燃料kg-co2	11,266	11,563	10,797
産廃中間処理 t	28.47	28.58	22.20
総排水量m <sup>3</sup>	1,370	1,272	1,169

### (9) 会社ホームページ <http://www.fuku-net.co.jp/>

### 3.実施体制

エコアクション 21 環境経営システムを構築、運用、維持し、環境への取り組みを実施するために次の実施体制を構築する。各自の役割、責任及び権限を次のように定め、全従業員に周知する。



	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な人員、設備、費用、時間、技能者を準備</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境経営方針の策定・見直し及び従業員へ周知</li> <li>環境目標・環境活動計画書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直しを実施</li> <li>環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境関連法規の取りまとの表を承認</li> <li>環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>環境経営の取組を代表者へ報告</li> <li>環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局 EA21推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局</li> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取組自己チェックの実施</li> <li>環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>環境経営の実績集計</li> <li>環境関連法規等取りまとの表の作成</li> <li>環境関連法規等取りまとの表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付と地域事務局への送付）</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営システムの実施</li> <li>自部門における環境経営方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>特定された項目の手順書の作成及び運用管理</li> <li>特定された緊急事態への対応の為の手順書作成、テスト、訓練を実施、記録を作成</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的、積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

#### 4.環境経営目標と実績

##### (1) 中長期目標

基準年度に対して、今後3年間の運用目標をまとめた表になります

2021年度実績を基準年度期間として設定

環境目標	単位	基準年度（2021年度）		2022年度		2023年度		2024年度	
		基準値	目標	基準年度比	目標	基準年度比	目標	基準年度比	
売上高	億円	20.54	22	107%	22	107%	22	107%	
二酸化炭素排出量削減（電力消費量）※	kg-CO2/百万円	3,113	3,104	99.5%	3,082	99%	3,066	98.5%	
二酸化炭素排出量削減（燃料消費量）	kg-CO2	11,266	11,153	99.0%	11,041	98%	10,928	97%	
二酸化炭素排出量（総量）	kg-CO2	536,449	533,767	99.5%	536,448	99%	528,402	98.5%	
廃棄物の削減（一般廃棄物）	袋	1,097	1,075	98%	1,064	97%	1,053	96%	
廃棄物の削減（産業廃棄物）	kg	28,470	28,328	100%	28,185	99%	27,901	98%	
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	1,370	1,370.00	100%	1,356.3	99%	1,342.60	98%	
製品への環境配慮（自社環境配慮製品売上本数）	本	2,391	2500	105%	2750	115%	2989	125%	
化学物質使用量（不良率）	%	31	25	81%	20	65%	10	32%	
環境マネジメントシステムの確立		第一版として策定した「EA21環境経営マニュアル」に従って取り組んだ内容を精査し、改良を行う		「EA21環境経営マニュアル」の見直しと、新たなマネジメントシステムの実施					
環境関連法規の遵守		関連する法規の調査・整理 評価方法の設定		環境関連法規の遵守評価 新たな法規の調査と遵守					
周知・公表		EA21環境活動についての周知を「EA21環境経営マニュアル」に従って行う		EA21環境活動の周知に関して評価をし、改善を行う					
				HP上で「EA21活動」の公表を行う		HPの「環境活動レポート」の更新			

※排出係数0.452kg-co2/kwh（2019年度 中部電力データ）

(2) 今年度の環境経営目標とその結果

活動対象期間： 2023年6月21日～2024年6月20日

環境目標	2023年度		今回活動結果	
	単位	目標値	実績	目標比達成度
売上高	億円	22	20.8	95%
二酸化炭素排出量削減（電力消費量）※	kg-CO2/百万円	3,082	3,011	98%
二酸化炭素排出量削減（燃料消費量）	kg-CO2	11,041	10,797	98%
二酸化炭素排出量（総量）	kg-CO2	536,448	524,692	98%
廃棄物の削減（一般廃棄物）	袋	1,064	912	86%
廃棄物の削減（産業廃棄物）	k g	28,185	22,220	79%
水使用量の削減	m <sup>3</sup>	1,356	1,169	86%
製品への環境配慮（自社環境配慮製品売上本数）	本	2,750	4,857	177%
化学物質使用量（不良率）	%	20	34	169%
環境マネジメントシステムの確立	-	「EA21環境経営マニュアル」の見直しと、新たなマネジメントシステムの実施	-	○
環境関連法規の遵守	-	環境関連法規の遵守評価 新たな法規の調査と遵守	-	○
周知・公表	-	EA21環境活動の周知に関して評価をし、改善を行う	社内法で周知	◎
		HPの「環境活動レポート」の更新	未実施	×

※排出係数0.452kg-co2/kwh（2019年度 中部電力データ）

## 5.取組結果の評価及び次年度への取組

今回活動期間：2023年6月21日～2024年6月20日

次回活動期間：2024年6月21日～2025年6月20日

環境方針	期間取組計画	取組結果と評価	次年度の取組内容
売上高	-	-	-
二酸化炭素排出量削減（電力消費量）※	より効率のよい生産体制の構築	目標を達成することができた	より効率のよい生産体制の構築
二酸化炭素排出量削減（燃料消費量）	計画的な便の使用	目標を達成。	計画的な便の使用
廃棄物の削減（産業廃棄物）	工場内での不良低減活動により廃棄物を減らす	目標を達成	工場内での不良低減活動により廃棄物を減らす
水使用量の削減	引き続き空冷化可能な製品を移行させていく。	全体的に水使用量は減っている	引き続き空冷化可能な製品を移行させていく。
化学物質不良率	日次決算シートから工程内不良率の改善につなげる	目標の達成には至らなかった	日次決算シートから工程内不良率の改善につなげる
製品への環境配慮（自社環境配慮製品売上本数）	自社商品の販売促進をさらにおこなう	ODMでの販売により大きく目標を達成することができた	自社商品の販売促進をさらにおこなう
環境マネジメントシステムの確立	経営活動の指標と結びつける	顧客へのデータとして活用できた。	経営活動の指標と結びつける
環境関連法規の遵守	引き続き適正に管理を行う	適正に管理を行った	引き続き適正に管理を行う
周知・公表	環境PJの活動とリンクさせ、EA21の活動を周知する。	電気使用量および	環境PJの活動とリンクさせ、EA21の活動を周知する。

## 6.法規制の遵守

### (1) 環境関連法規制等

法規制等の名称	該当する設備・項目	遵守確認
下水道法	除外設備（油水分離槽）	○
騒音規制法	空気圧縮機（7.5 k w以上）	○
	送風機（7.5 k w以上）	○
	合成樹脂用射出成型機	○
振動規制法	空気圧縮機（7.5 k w以上）	○
	合成樹脂用射出成型機	○
悪臭防止法	規制地域：岐阜市の区域を除く県内全域	○
フロン排出抑制法	業務用エアコン、冷蔵機器及び冷凍機器（自販機を含む）	○
		○
グリーン購入法	文房具等	○
岐阜県公害防止条例	騒音特定施設等	○
	走行クレーン（すべて）	○
	クーリングタワー(原動定格出力0.75kW以上)	○
	合成樹脂用射出成型機	○
加茂消防事務組合火災予防条例	溶接作業、溶断作業、グラインダー作業	○
	指定数量未満の危険物の貯蔵及び取扱いの基準/指定数量の5分の1以上指定数量未満危険物	○
		○
		○
		○
廃棄物処理法	産業廃棄物	○
	一般廃棄物	○

※別に「環境関連法規等のとりまとめ/遵守表」があります。

### (2) 違反および訴訟などの有無

環境関連法規への違反はありません。なお環境当局より違反および訴訟等の指摘は過去 3 年間ありません。

## 7.代表者による全体の評価と見直し・指示

環境負荷を削減することは、社会に貢献するとともに会社及び社員の利益になることと思います。

EA21 環境マネジメントシステムを運用し、少しずつ環境への取り組みも活性化されつつあります。

2023年11月には2019年に植樹したオリーブの実を社員で収穫、搾油し、オリーブシャンプーとして従業員および取引先に渡すことができました。収穫の際には従業員の家族にも参加してもらい、交流を図ることができました。

2024年6月には可児工業への派遣授業の2回目の実施、社員の成長および地域社会への貢献に寄与することができました。

2024年6月からは原価管理PJも始まり、経営情報および生産情報をフクシマ化学流に分析し、ダイナミックなアクションにつなげていけるようなベースづくりをスタートさせることができました。

今後もエコアクション 21 環境経営マニュアル、環境経営方針に従い全社で取り組んでいってください。外部環境に合わせ当社の環境マネジメントシステムを確立していき、EA21 の取組が豊かな地球環境を守り、当社の社会的地位のさらなる向上および、社業の発展に寄与することを期待します。

- ・環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・見直しの必要 無
- ・環境経営目標及び環境経営計画・・・・・・・・見直しの必要 無
- ・実施体制・・・・・・・・・・・・・・・・見直しの必要 有（総務部から経営管理部へ変更）

実施日 2024年8月10日

出席者 代表取締役 福島康貴

環境管理責任者 今峰良太

見直しのための提示資料

- ・環境活動計画実施状況表
- ・環境への負荷の状況（取りまとめ表）
- ・環境マニュアル
- ・環境経営目標及び環境経営計画